

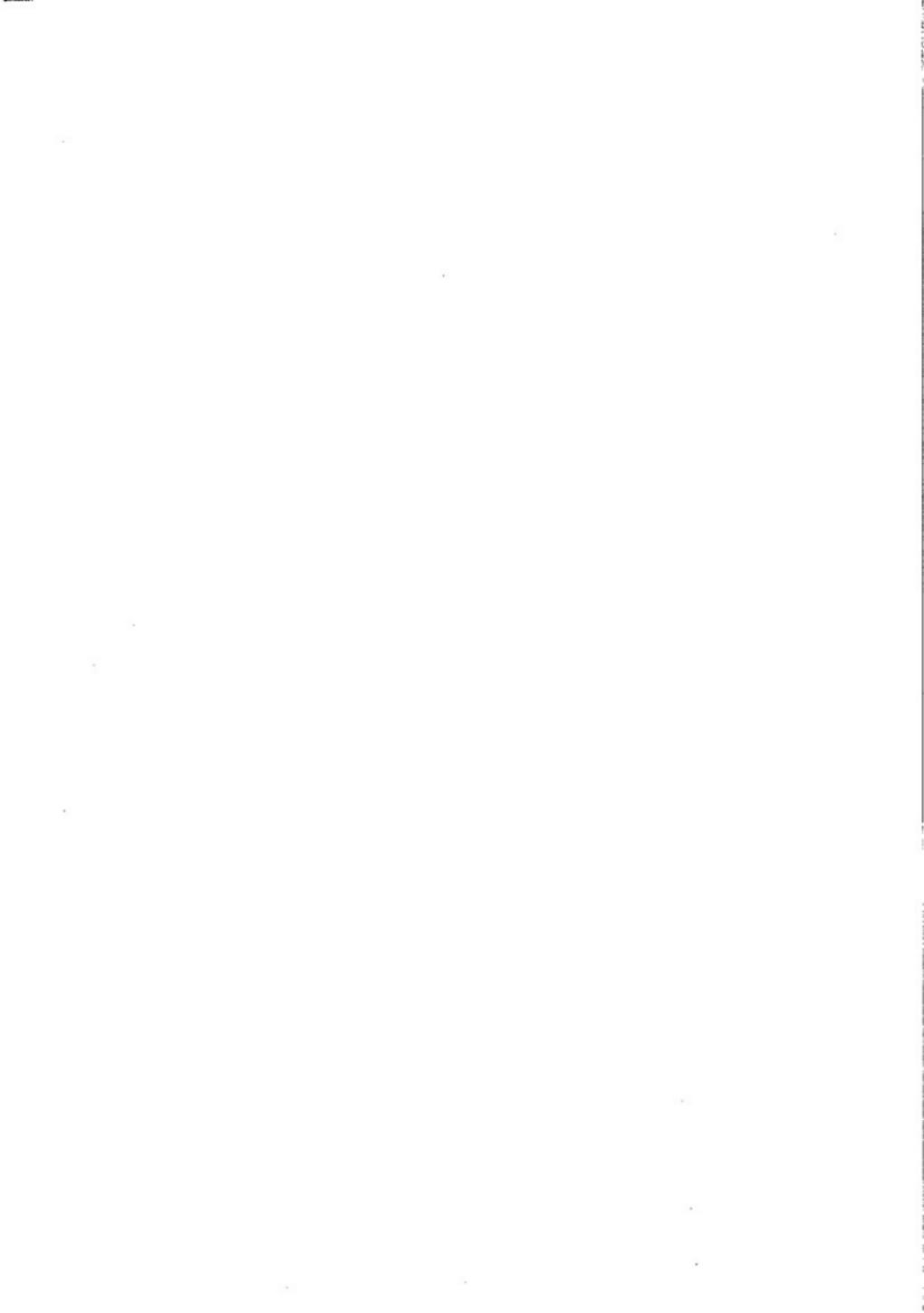
# 八尾市文化財調査研究会報告 110

老原遺跡第13次調査

奈良街道第1次調査

2007年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



# 八尾市文化財調査研究会報告 110

老原遺跡第13次調査  
奈良街道第1次調査

2007年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

## はしがき

大阪府の東部に位置する八尾市は、河内平野の南部にあります。河内平野は旧大和川水系の河川により形成された肥沃な土壌を有する土地で、古くから人々の生活の場として適した地域でした。現在でも先人が残した貴重な文化遺産が市内各地に数多く残されております。

今日の八尾市の礎を築いた先人たちが、自然を巧みに利用し、土地を開発し、懸命に生きてきた痕跡が、文化遺産の一つである埋蔵文化財であります。私たちは埋蔵文化財から、「地域に対する愛着」を育み、「現代に生きる知恵」を学ぶことができるものと考えております。

このかけがえのない埋蔵文化財が、近年の開発工事などの増加により破壊され消滅してゆく状況にあります。そこで私共は、破壊され消滅する危機にさらされている埋蔵文化財を、後世に永く伝えるため、事前に発掘調査を行い、その記録保存を行い、文化の継承に役立てることに努めている次第であります。

今回報告する、老原遺跡第13次調査・奈良街道第1次調査は、公共下水道工事に伴い平成18年度から19年度にかけて実施しましたので、中世を中心とした当時の人々の生活の一端を知ることのできる遺構・遺物が見つかりました。

本書が地域の歴史を解明していく資料として、また埋蔵文化財の保護・普及のため広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、一連の発掘調査に対して御協力いただきました関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げると共に、発掘調査や整理作業に従事された多くの方々に御礼申し上げます。今後とも文化財保護に一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年5月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 岩崎 健二

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市東老原2丁目および志紀町3丁目地内で実施した寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線(第2工区)下水管渠築造工事に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する老原遺跡第13次調査(OH 2006-13)・奈良街道第1次調査(NK 2006-1)の発掘調査業務は、大阪府東部流域下水道事務所・八尾市教育委員会・財団法人八尾市文化財調査研究会の三者で締結した「寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線下水管渠築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査協定書」に基づき実施したものである。
1. 現地調査の期間・調査担当者・調査面積は、以下の通りである。

### 老原遺跡第13次調査

期間：平成18年12月18日～平成19年3月26日(実働12日)

調査担当者：荒川和哉・高萩千秋

調査面積：約52m<sup>2</sup>

### 奈良街道第1次調査

期間：平成19年3月19日～平成19年4月13日(実働12日)

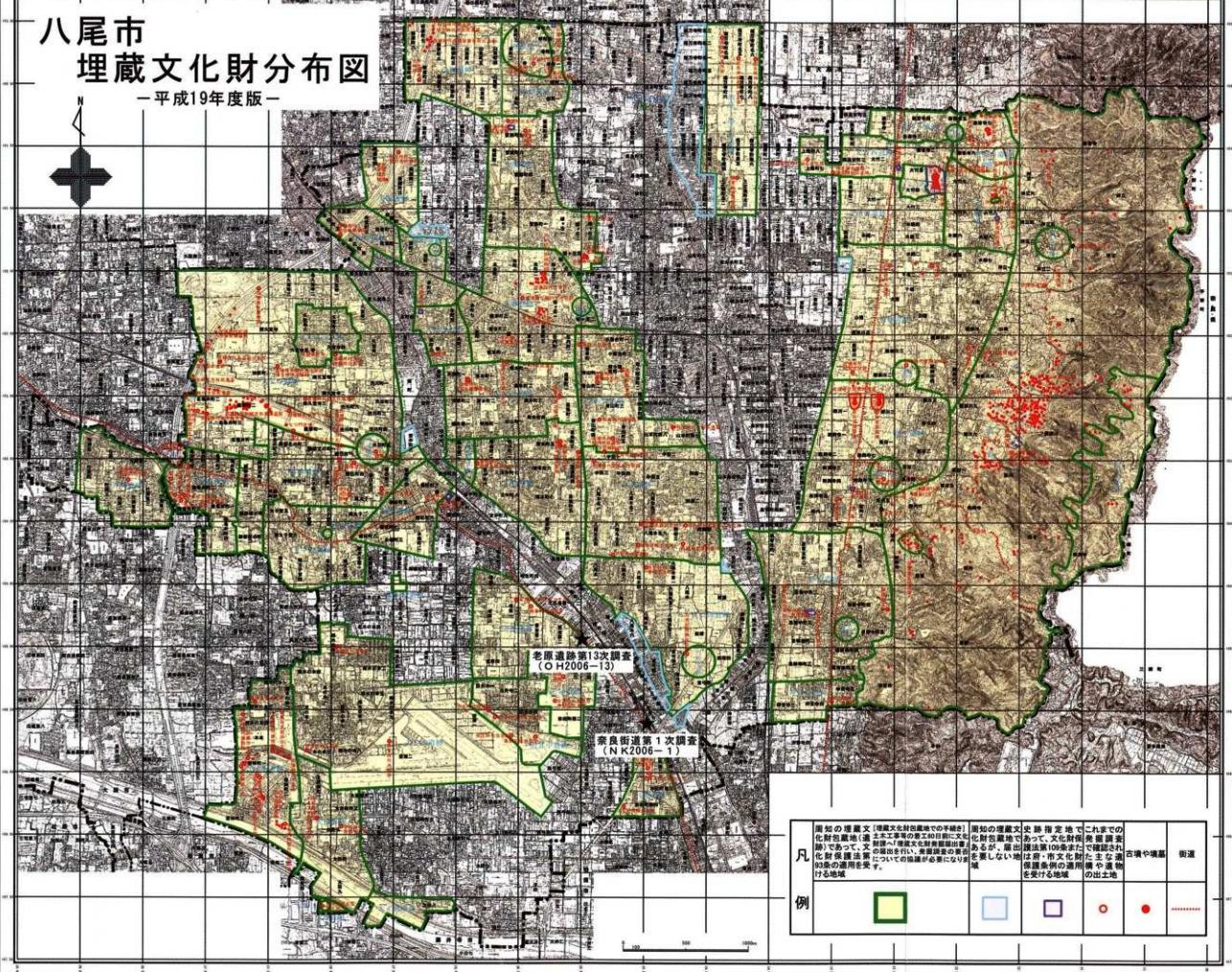
調査担当者：荒川・高萩・坪田真一

調査面積：約89m<sup>2</sup>

1. 本書の執筆・編集は、荒川が行った。
1. 整理業務は、現地調査終了後、随時実施し、平成19年7月31日に完了した。
1. 本書作成に関わる業務の担当者は、以下の通りである。
  - 【遺物実測】荒川・中村百合・村井厚三・村井俊子
  - 【遺物図面トレース】荒川・市森千恵子
  - 【図面レイアウト・遺構図面トレース・写真レイアウト】荒川
  - 【遺物写真撮影】青山・洋・荒川
  - 他に、鷹羽侑太・中浜輝志の協力を得た。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市発行の1:5000の地形図(昭和61年測量、平成6年修正、平成8年7月編纂)、および八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』(平成19年度版)を使用した。
1. 本書で使用している標高は、すべて東京湾平均海面(T.P.)である。挿図では「T.P.」を省略し、数値のみを記した。
1. 土色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1997年後期版を用いた。
1. 本書に掲載した図面の縮尺は、平面図・壁断面図・遺構平面図・遺構断面図については、各図に示した。遺物実測図は1:4である。
1. 遺物実測図の断面は、須恵器が黒塗り、瓦は斜線、その他は白抜きで表した。
1. 調査および整理過程で作成した写真・図面等の調査成果に関する資料は、財団法人八尾市文化財調査研究会で保管している。広く利用されることを希望する。

# 八尾市 埋蔵文化財分布図

一平成19年度版一



# 目 次

## はしがき

### 例言

### 八尾市埋蔵文化財分布図

1.はじめに.....	1
2.遺跡の位置と環境.....	1
3.老原遺跡第13次調査の調査概要.....	2
1) 調査の方法と経過.....	2
2) 層序.....	3
3) 検出遺構と出土遺物.....	4
4.奈良街道第1次調査の調査概要.....	6
1) 調査の方法と経過.....	6
2) 層序.....	7
3) 検出遺構と出土遺物.....	8
5.まとめ.....	10

### 報告書抄録・奥付

# 挿 図 目 次

図1 調査地周辺図.....	2
図2 老原遺跡第13次 調査区位置図.....	3
図3 老原遺跡第13次 地層断面および検出遺構平面図.....	5
図4 老原遺跡第13次 出土遺物.....	6
図5 奈良街道第1次 調査区位置および区割り図.....	7
図6 奈良街道第1次 地層断面および検出遺構平面図.....	8
図7 奈良街道第1次 出土遺物.....	9

# 図 版 目 次

図版1 老原遺跡第13次調査 調査地全景	
老原遺跡第13次調査 機械掘削状況	
老原遺跡第13次調査 人力掘削状況	
老原遺跡第13次調査 遺構検出面	
老原遺跡第13次調査 落込み01	
老原遺跡第13次調査 地層断面	

図版2 奈良街道第1次調査 調査地全景	
奈良街道第1次調査 機械掘削状況	
奈良街道第1次調査 人力掘削状況	
奈良街道第1次調査 地層断面	
奈良街道第1次調査 溝01検出状況	
奈良街道第1次調査 溝01完掘状況	

## 1. はじめに

八尾市域における人口増加による増える汚水と降雨時に急増する雨水を効率的に排水するため、大阪府東部流域下水道事務所により、寝屋川流域下水道事業が進められており、八尾市東老原2丁目および志紀町3丁目地内において寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線(第2工区)下水管渠築造工事が行われることになった。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である老原遺跡、街道である奈良街道の範囲内に当たるため、工事により破壊される部分の発掘調査を委託された財団法人八尾市文化財調査研究会(以下、八文研とする)が、大阪府東部流域下水道事務所・八尾市教育委員会・八文研の三者で締結した「寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線下水管渠築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査協定書」に基づき発掘調査を実施した。

## 2. 遺跡の位置と環境(図1)

### 老原遺跡

老原遺跡は、八尾市の南西部に位置し、東西約1.0km、南北約0.8kmの範囲に広がる弥生時代後期以降の複合遺跡である。現在の行政区画では、八尾市老原1～4丁目、東老原1・2丁目がその範囲に含まれる。遺跡範囲内の現地表の標高は、T.P. + 9.8～12.6mを測る。

当遺跡は、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵・河内台地、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南部に位置する。河内平野は、旧大和川水系の平野川・長瀬川・楠根川・玉串川・恩智川が西ないし北方向に流れている。当遺跡は、旧大和川水系の主流であった長瀬川の左岸一帯に広がる沖積地の自然堤防・後背湿地上に位置する。当遺跡の北東縁は奈良街道に当たり、当遺跡の南側には、田井中遺跡・志紀遺跡が隣接する。今回の調査地は、当遺跡の東端部に位置し、奈良街道に接する。

当遺跡の概要および既往調査の成果等については、既刊の報告書(原田 2004 他)に詳しいので、本書での記載は割愛する。

### 奈良街道

奈良街道は、四天王寺付近から平野・亀井・太子堂を経て、植松から長瀬川沿いに老原・田井中・弓削・柏原の旧村を経て、大和川沿いに高井田から背谷に抜け、大和に至る街道である。江戸時代には亀瀬街道・大和街道・和州街道と呼ばれていた。奈良時代以前から交通の往来が盛んであった。現在の国道25号線は、その多くの部分を受け継ぎ、今もなお八尾市内を横断する主要道路としての役割を担っている。奈良街道は、街道であるため、周知の埋蔵文化財包蔵地ではない部分がある。八尾市西部では亀井遺跡・跡部遺跡・太子堂遺跡・植松遺跡の範囲内を横断し、市南部では老原遺跡・志紀遺跡・弓削遺跡の北東縁に当たる。奈良街道は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲にある部分を除き、発掘による調査は実施されていないが、大阪府教育委員会により、現地調査による資料の収集・整理、現状報告が行われている(大阪府教育委員会 1989)。今回の調査地は、弓削遺跡の北側に位置し、調査地の約50m西側には弓削神社の一社がある。

南側の弓削遺跡で実施された発掘調査での調査成果(岩瀬 透・阿部幸一 1995・西村 2007 他)によると、今回の調査地に近くなるにつれて、遺構・遺物の検出が希薄になって行く傾向が見られる。

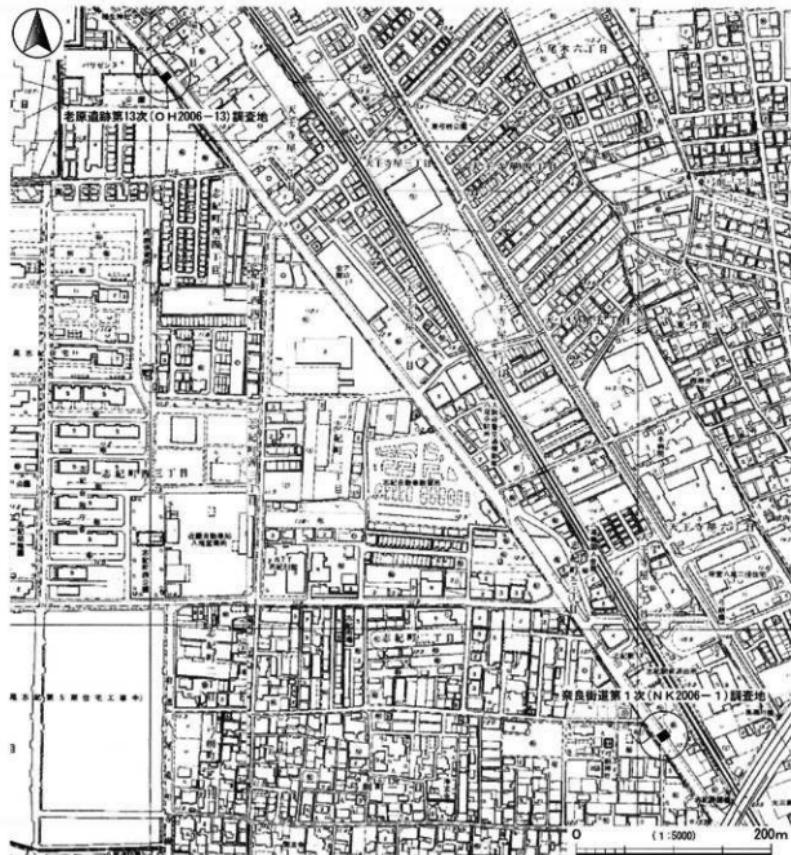


図1 調査地周辺図

### 3. 老原遺跡第13次調査の調査概要

#### 1) 調査の方法と経過

本書で報告する老原遺跡第13次調査は、寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線(第2工区)下水管渠架造工事(No3中間立坑部)に伴い実施したものである。

**調査地** 八尾市東老原2丁目地内の国道25号線とその南西側の歩道上・公園(工事期間中は工事基地)に位置する。

**調査区** 6.6×7.8mの方形で、南西-北東方向にわずかに長い。調査面積は約52m<sup>2</sup>である(図2)。

**調査時間** 調査区の約3/4が国道25号線および歩道にかかるため、現地調査は交通量の多い日中

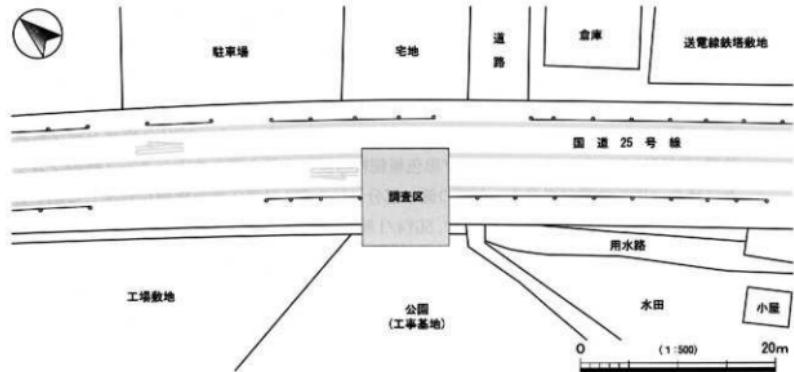


図2 老原遺跡第13次 調査区位置図

には行えず、片側交互通行の交通規制のもと夜間に行った。

**掘削** 現地表(T.P. + 12.6 m)下1.0 m前後までは、覆鋼板設置と地盤改良に伴う工事により掘削されていたため、現地表下1.0 m以下3.0 mまで行った。現地表下1.0 m前後から2.0 m前後までは機械で掘削した。調査区中央部付近を除く約3/4の部分で、現地表下3.0 m近くまで地盤改良に伴う地層の攪拌・固化材による地層の硬化が及び、また、柱状の固化材が残っていたため、その部分も機械により除去した。調査区中央部付近の現地表下2.0 mから3.0 mまでを人力・機械併用で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

**下層確認** 現地表下3.0 mまでの発掘調査終了の後、現地表下9.0 m前後までの下層確認を行った。下層確認は、工事に伴って排出される堆土を観察し、遺物の有無を確認した。

**調査の結果** 中世以降に造成された地層が確認され、その上面で落込み1箇所が検出された。出土遺物は、整理用コンテナ(60×40×20 cm)1箱に収まる。

## 2) 層序(図3)

調査区で確認された地層は、3層(3-1層～3-3層)を除き、すべて自然堆積層である。3層は、ブロック土を主体とするか、ブロック土を含む地層で、人為的な造成により形成された地層と見られる。

現地表下3.0 m以下の下層確認で確認された地層は、暗オリーブ灰色を呈する極細粒砂混じるシルト～粘土質シルト(現地表下3.0～4.8 m)、黒色ないし暗オリーブ灰色を呈する極細粒砂混じる粘土質シルト～シルト質粘土(現地表下4.8～6.0 m)で、粘質土を主体とする。現地表下7.0～9.0 m付近で径5 mm以下の礫混じる極粗粒砂～粗粒砂の堆積を確認した。下層確認部分では、礫混じる砂層から流木が多く出土しているが、この中に伐採の痕跡のあるものを確認した。以下に、現地表下3.0 mまでの埋蔵文化財発掘調査で確認した地層について記載する。

1層：5Y6/2 黒オリーブ色径5 mm以下の礫混じる極粗粒砂～中粒砂。板状層理が見られる。

- 2層：5GY4/1 暗オリーブ灰色(上部は酸化鉄分を含み 7.5YR4/6 褐色)細粒砂～極細粒砂。板状葉理が見られる。木本の植物遺体を含む。
- 3層：ブロック土を主体とするかブロック土を含む地層で、ブロック土の種類とその多寡により以下の3層に分けられる。土師器・須恵器・瓦器の破片が出土。
- 3-1層：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色極細粒砂混じる粘土質シルト・5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質(極粗粒)シルト・5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂混じる粘土質シルト・3-2層のブロックに径2cm以下の礫が混じる。上面の低い部分には2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂混じる粘土質シルトが薄く堆積する。3-2層：7.5GY4/1 暗緑灰色極細粒砂混じる粘土質シルト(5GY4/1 暗オリーブ灰色径5mm以下の礫～極粗粒砂混じる粗粒砂～細粒砂のブロックを含む)に径5mm以下礫がまばらに混じる。3-3層：5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂～極細粒砂混じる粘土質シルトに径1.5cm以下の礫～極粗粒砂がまばらに混じる。調査区東部では、砂礫が主体となる。
- 4層：5GY4/1 暗オリーブ灰色径2cm以下の礫混じる砂礫。土師器の破片が出土。
- 5層：黄灰色・灰色の粘土質シルトで、砂との互層をなすか否かで、以下の2層に分けられる。
- 5-1層：2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂混じる粘土質シルトと5Y4/1 灰色シルト質細粒砂～極細粒砂の葉層の互層。4層が残る下位では、5Y4/1 灰色細粒砂～極細粒砂の葉層と2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂混じる粘土質シルトの薄層が上位に載る。5-2層：2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂混じる粘土質シルト。
- 6層：7.5GY4/1 暗緑灰色径5cm以下の砂礫(礫主体)。土師器・須恵器の破片が出土。
- 7層：7.5Y3/1 オリーブ黒色極粗粒砂混じる粘土質シルト。

### 3) 検出遺構と出土遺物

#### ・検出遺構

- 3層上面(T.P. + 10.5 ~ 10.3m)で、中世以降の落込み1箇所(落込み01)が検出された。
- 落込み01(図3・図版1)

落込み01は、人为的に造成された地層である3層の上面が、窪んでいたものである。調査区の中央部付近を除く約3/4が工事に伴う地盤改良材の影響で硬く、機械で除去したため、中央部の幅2mほどの部分しか検出できず、全容は不明である。検出部分での幅は約4.8mで、落込みの肩からの底までの深さは20~30cmである。概ね、南東-北西方向では中央部が低く、南西-北東方向では南西が低い。埋土は5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂～極細粒砂(2層)である。落込みの肩部分の3層上面で、瓦器の破片が1点出土している。窪んで低くなっている部分には、粘土質シルトが薄く堆積しており、2層の砂により埋没するまでの間、窪んだ部分に水が浸る地表面であったことが窺える。落込みをなす3層が中世の堆積層であることから、落込み01の帰属時期は中世以降に比定される。

#### ・遺構に伴わない出土遺物

遺構に伴わない出土遺物は、3層・4層・6層から出土している。以下に、各層の出土遺物について記す。

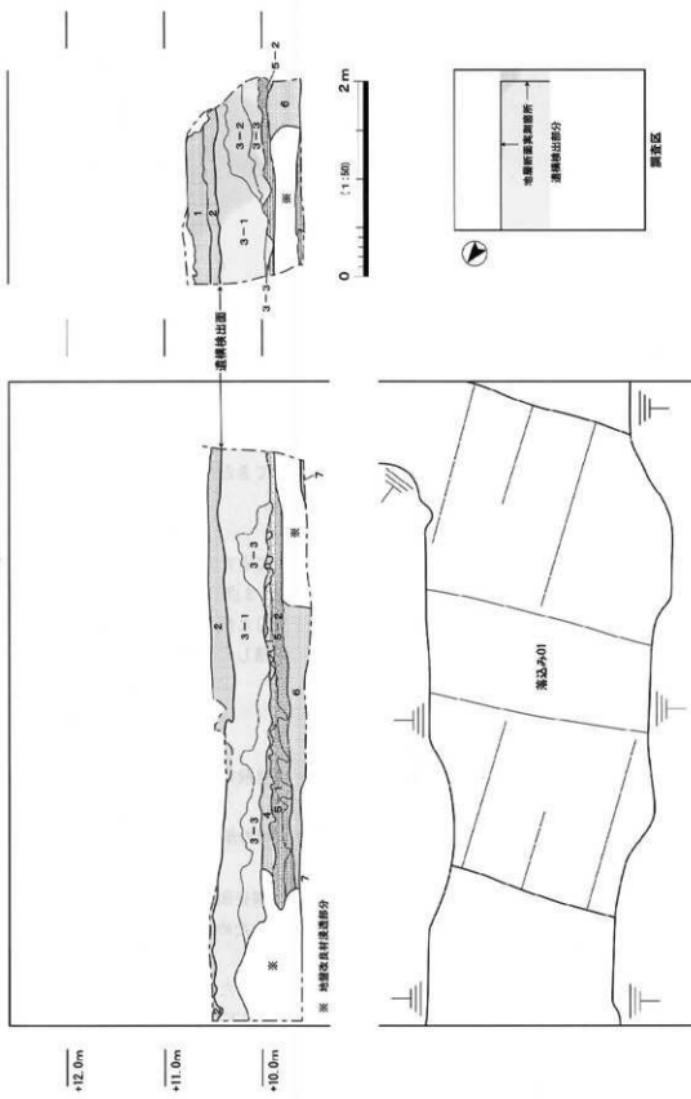


図3 老原道路第13次 地層断面および露出地盤断面図

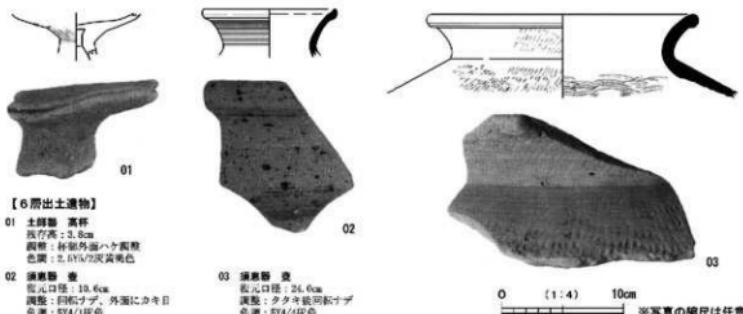


図4 老原遺跡第13次 出土遺物

### 3層出土遺物

主に3-1層から、土師器・須恵器・瓦器の破片が数点出土している。出土遺物から、3-1層は中世以降に形成されたと考えられる。

### 4層出土遺物

砂礫層である4層からは、砂礫とともに他所から流されてきた土師器の破片が1点出土している。壺の体部と見られるが、時期は不明で図化はできない。

### 6層出土遺物(図4)

砂礫層である6層からは、砂礫とともに他所から流されてきた土師器・須恵器の破片が出土している。出土量は他の地層に比べて多い。出土遺物のうち、3点(01~03)を図化した。土師器高杯(01)は古墳時代前期以降に見られるもので、須恵器壺(02)と須恵器壺(03)は6世紀代のものと見られる。6層は、出土遺物から、古墳時代後期以降に堆積した地層と考えられる。

## 4. 奈良街道第1次調査の調査概要

### 1) 調査の方法と経過

本書で報告する奈良街道第1次調査は、寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線(第2工区)下水管渠築造工事(No.5到達立坑部)に伴い実施したものである。

**調査地** 八尾市志紀町3丁目地内の国道25号線とその北東側の歩道上・民有地(工事期間中は工事基地)に位置する。

**調査区** 8.3×10.7mの方形で、南西-北東方向に長い。調査面積は約89m<sup>2</sup>である(図5)。

**調査時間** 調査区の約3/4が国道25号線および歩道に掛かるため、現地調査は交通量の多い日中には行えず、片側交互通行の交通規制のもと夜間に行った。

**区割り** 調査区が狭いため、区割りは当初行わない予定であったが、記録・記載の便宜上、行う方が良いと判断したため、以下のように行った。調査区の地表下に覆鋼板を設置するための梁(H鋼)が、北西-南東方向に4本渡されており、H鋼の中心を境に5つの区に分けた。5つに分けた区を北から1区~5区と呼称した(図5)。

**掘削** 現地表(T.P.+13.7m)下1.0m前後までは、覆鋼板設置と地盤改良に伴う工事により掘削

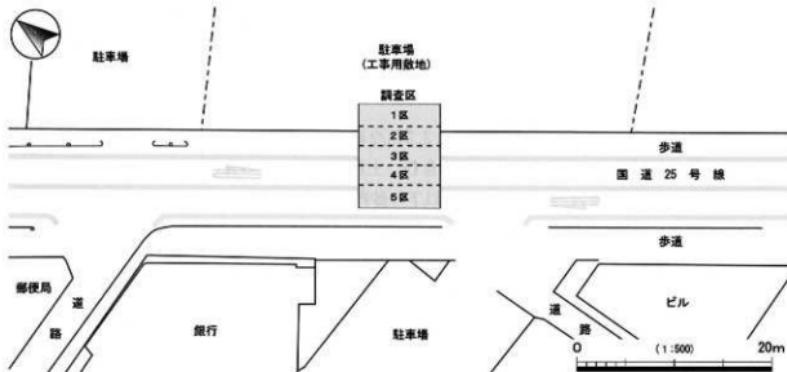


図5 奈良街道第1次 調査区位置および区割り図

されていたため、現地表下1.0m以下3.0mまで行った。最初に、2区の機械掘削を行った。西部で地盤改良に伴う固化材が径約1.5mの柱状に注入されており、東部では地盤改良の影響により硬化していたため、この部分を最大現地表下2.7mまで除去した。次に、1区の機械掘削を行った。1区では注入された柱状の固化材が3本あり、本来の地層はこの間の数10cmの部分に残っていた。しかし、本来の地層が残っている部分も地盤改良に伴い地層が上下に移動していたため、本来の位置を保っていない部分が殆どであった。現地表下2.0m付近から上では固化材の広がりや下位の砂礫の噴出しが見られた。このため、現地表下2.0mまで機械により除去することにし、3区・4区・5区の掘削を行ったところ、現地表下1.7~1.9m以下の地層が部分的に細長く残っている部分が2箇所あった。このうち相対的に地層の残りが良かった調査区南東部に地層観察用の畦を残し、地層の記録を取ることにした。3区~5区では、地盤改良に伴う固化材の浸透や、下位の砂礫の噴出し等による地層のずれにより地層が本来の位置を保っている部分が1区よりも少なく、また、NTTの配管埋設等による搅乱により現地表下3.0m近くまで搅乱を受けていた。このため、地層観察用の畦以外の部分を機械・人力併用で現地表下3.0mまで除去し、主に遺物採取に努めた。1区については、現地表下2.0mから3.0mまで、本来の地層が本来の位置で残っている部分を人力により掘削し、主に遺物採取に努めた。

**調査の結果** 地層観察用の畦の上で、室町時代後期の溝1条が検出された。出土遺物は、整理用コンテナ(60×40×20cm)1箱に収まる。

## 2) 層序(図6・図版2)

調査区南東の地層観察用の畦で確認された現地表下1.7m以下の地層は、大別すると3層(2層~4層)である。調査区南西部の壁面および3区南西部で、2層の上位の現地表下1.6~1.7mで、木本の植物遺体を含む5Y3/1.5オリーブ黒色径5mm以下の漂混じる砂質(極粗粒~粗粒)シルトを確認した。これを1層とする。1層からは、須恵器・瓦器・瓦の破片が出土した。2層は3つ(2~1層~2~3層)に細分でき、3層は2つ(3~1層・3~2層)に細分でき、4層は5つ(4~1

層～4～5層)に細分できる。1層・2層は擾拌層、4層は河川堆積層と見られる。以下に、2層以下の地層を個別に記載する。

- 2-1層：2.5Y5/3 黄褐色径5mm以下の砂礫混じる砂質(細粒～極細粒)シルト。管状の酸化鉄が見られる。
- 2-2層：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色(上部は2.5Y5/2 暗灰黄色)径1.5cm以下の砂礫混じる砂質(細粒～極細粒)シルト。炭化物粒を含む。上部に上位からの管状の酸化鉄が見られる。
- 2-3層：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色径5mm以下の砂礫を含む砂質(細粒～極細粒)シルト。
- 2-1～2-3層からは、奈良～室町時代の遺物(土師器・須恵器・瓦の破片)が出土。
- 3-1層：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質(細粒～極細粒)シルト。2-3層より砂質で、シルト質細粒砂～極細粒砂を葉層状・斑状に含む。
- 3-2層：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色(3-2層より明るい)シルト質中粒砂～極細粒砂。
- 4-1層：10Y4/1 灰色(下部は2.5Y6/4 にぶい黄色)中粒砂～極細粒砂。葉理が見られ、2.5Y4/2 暗灰黄色シルトの葉層を挟む。
- 4-2層：10YR4.5/3 にぶい黄褐色細粒砂～極細粒砂。葉理が見られ、上部に2.5Y5/3.5 黄褐色砂質(極細粒)シルトの薄層を挟む。
- 4-3層：10YR5/4 にぶい黄褐色径5mm以下の礫～中粒砂(上部ほど細粒)。
- 4-4層：10YR4.5/6 褐色シルト質極細粒砂。
- 4-5層：10YR4/3 にぶい黄褐色径1.5cm～5mmの礫混じる砂礫。斜交層理が見られる。
- 4-6層：7.5YR4/4 褐色径7～3cmの礫混じる砂礫。層理は見られない。

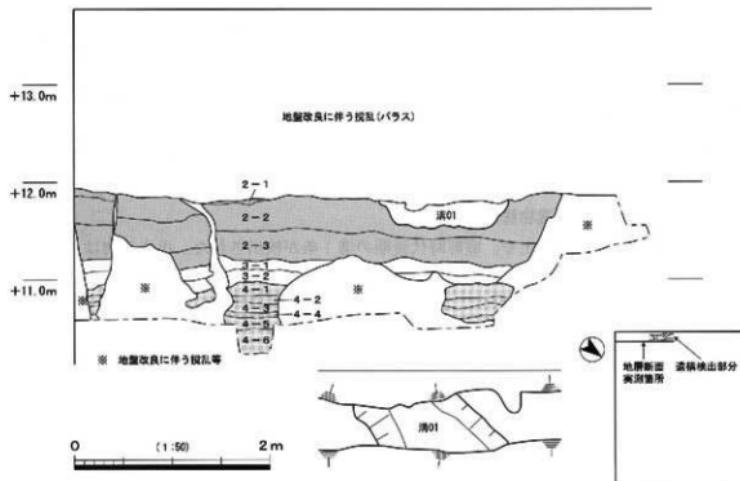


図6 奈良街道第1次 地層断面および検出遺構平面図

### 3) 検出遺構と出土遺物

#### ・検出遺構

地盤改良に伴うバラスを除去した面(現地表下1.9m前後)で、室町時代後期の溝1条(溝01)が検出された。

溝01(図6・図7・図版2)

調査区南東部の地層観察用の畦で、遺構埋土と見られる地層が確認されたため、畦の上に堆積するバラスを除去し精査したところ、南北方向に伸びる溝が検出された。北側は、地盤改良に伴い地層がずれており、南側は土留めのH鋼打設により擾乱されていたため、全容は不明である。検出部分で幅約1m・深さ約15cmを測る。埋土は7.5Y4/1灰色極細粒砂混じる粘土質シルト(木本の植物遺体を含む)と2.5Y5/1オリーブ灰色細粒砂・極細粒砂の薄層・葉層の互層に2~2層のブロックが混じるものであるが、互層はブロック土や砾によりその構造が歪み、マーブル状の互層にブロック土が入る層相である。主に埋土の上部から、土師器・須恵器甕・擂鉢・羽釜(土師器・瓦質土器)・瓦質土器井筒・瓦(丸瓦)の破片、骨と見られる小片、拳大前後の破碎面のある礫16個が出土している。出土遺物のうち3点(04~06)を図化した。瓦質土器擂鉢(04)は室町時代後期(16

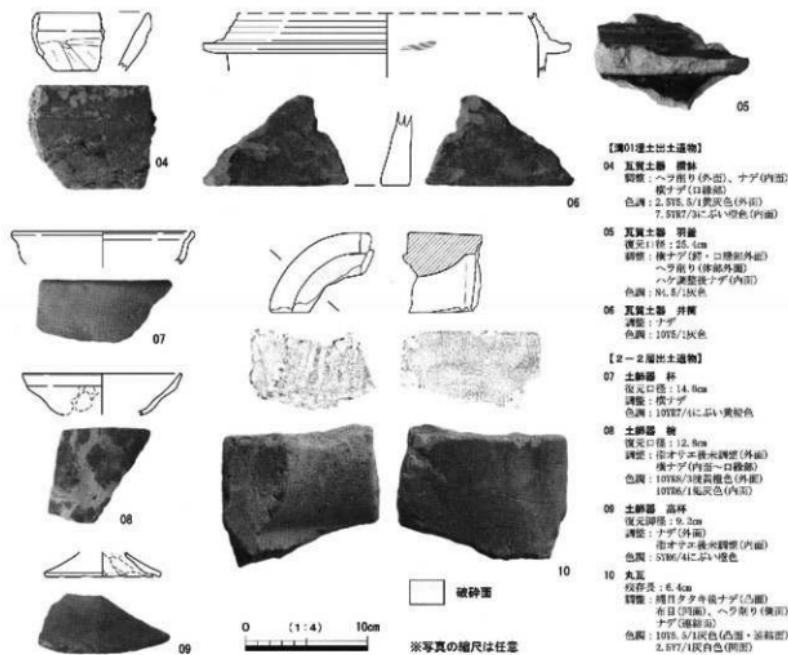


図7 奈良街道第1次 出土遺物

世紀)、瓦質土器羽釜(05)は室町時代中期(15世紀前半)、瓦質土器井筒(06)は室町時代中期(15世紀)に比定できる。遺構の帰属時期は、出土遺物から室町時代後期(16世紀)に比定できる。

溝01は2-2層の上面で検出されたが、上面が地盤改良に伴うバラスで覆われていたために、本来の構築面は不明である。1層・2-1層のブロックを含まないことから、2-2層上面遺構である可能性が高い。埋土の堆積状況・遺物の出土状況から、一時的に水の流れがあり、ある程度埋まったものが、最終的に2-2層および土器・瓦・礫で埋められたものと推測できる。

#### ・遺構に伴わない出土遺物(図7)

遺構に伴わない出土遺物は、1層と2層から出土している。ほとんどが、土器・瓦等の破片である。以下に、各層の出土遺物について記す。

#### 1層出土遺物

1層は、先に記した通り、残っている部分がわずかで、その分遺物の出土量も少ない。出土遺物は、須恵器甕・瓦質土器(器種不明・奈良火鉢か)・瓦(平瓦)の破片が数点である。時期を明確に比定できる遺物はないが、近世の陶磁器は含まない。1層は、出土遺物と層位から、中世後半(室町時代後期以降)の堆積層と考えられる。

#### 2層出土遺物

2層からの出土遺物は、2-1層から土師器・砥石の破片、2-2層から土師器・須恵器・瓦(丸瓦)の破片、2-3層から土師器の破片が出土している。2-2層からの出土遺物が2-1・2-3層に比べて多い。2-3層からの出土遺物は僅かで、破片の大きさは細かい。2層出土遺物は、細かい破片が多く、器種・時期を比定できるものは少ない。このうち4点(07~10)を図化した。土師器杯(07)は奈良時代、土師器碗(08)は平安時代前期~中期(9~10世紀)、土師器高杯(09)は飛鳥時代にそれぞれ見られるもので、丸瓦(10)は調整等の特徴から鎌倉時代に比定できる。2-2層は、出土遺物と層位から、中世(鎌倉時代以降室町時代中期まで)の堆積層と考えられる。

### 5.まとめ

今回調査した老原遺跡第13次・奈良街道第1次の各調査地は、奈良街道の旧街道筋に位置すると推測されるが、現地表下1.0m以上が調査に先行して行われた覆鋼板設置と地盤改良に伴う工事により掘削されていたために、奈良街道に伴う遺構があったかどうかは不明である。調査では、ともに中世を主とする遺構・遺物が検出された。各調査の現地表下2.0m前後から3.0mまでの調査成果を以下にまとめる。

#### 老原遺跡第13次調査

中世以降の人為的に造成された地層が確認され、この地層の上面で落込みが検出された。この地層のうち3-1層は、3-2層・3-3層を、3-3層は4層・5層を切っており、少なくとも2回以上の造成があったことが窺える。検出部分が僅かであったため、この地層の広がりや造成された目的を考えるに足るデータは抽出できなかった。落込みと4・5層を切る崖みの方向が、旧大和川水系の主流であった長瀬川にはほぼ直交すると見られることから、長瀬川に関わる土地利用・水利に伴う造成であった可能性を示すに留めておく。

#### 奈良街道1次調査

室町時代後期の溝1条が検出された。この溝は、先に記載した通り、南北方向に伸び、埋土の

堆積状況から一時的に水の流れがあったことが窺えることから、何らかの地割りによる用水等の用途が想定される。しかし、わずかな部分しか検出できなかつたため、具体的なことはわからぬ。溝埋土・1層・2層から出土した遺物は、土器・瓦の破片であるが、土器の破片には瓦質土器の羽釜・擂鉢・井筒などの破片が見られることから、近隣に集落があったと推測される。

#### 参考文献

- ・原田昌則 2004 「III 老原遺跡(第6次調査)」「IV 老原遺跡(第7次調査)」「V 老原遺跡第8次調査」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 81』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岩瀬 透・阿部幸・ 1995 『寝屋川南部流域下水道事業に伴う中垣内・志紀・弓削・太平寺遺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会
- ・西村公助 2007 「V 弓削遺跡(第6次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 97』 財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・大阪府教育委員会 1989 『奈良街道 歴史の道調査報告書 第4集』  
土器の型式・年代について参考にした文献
- ・菅原正明 1983 「畿内における中世土器の生産と流通」『藤沢一大先生古稀記念古文化論叢』(瓦質土器擂鉢・瓦質土器井筒)
- ・森島康雄 1990 「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究VI』 日本中世土器研究会(瓦質土器羽釜)

# 図 版

図版 1 (老原遺跡第13次調査)



図版2 (奈良街道第1次調査)



調査地全景(東から)



機械掘削状況(北から)



人力掘削状況(南から)



地層断面(北から)



溝01検出状況(北から)



溝01完掘状況(北から)

# 報告書抄録

ふりがな 書名	ざいだんほうじんやおしぶんかざいちょうさけんきゅうかくほうこう110 財団法人八尾市文化財調査研究会報告110							
副書名	老原遺跡第13次調査 奈良街道第1次調査							
巻次								
シリーズ名	財団法人八尾市文化財調査研究会報告							
シリーズ番号	110							
編著者名	荒川 和哉							
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会							
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700							
発行年月日	西暦2007年7月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
おおのから 老原遺跡 第13次調査	おおのからやおしりがりおおのから 大阪府八尾市東老原2丁目	27212	38	34度 06分 06秒	135度 06分 10秒	20061218 ～ 20070326	約52m <sup>2</sup>	公共下水道工事
ならかわいから 奈良街道 第1次調査	おおのからやおしりがりおおのから 大阪府八尾市志紀町3丁目	27212	1002	34度 06分 00秒	135度 06分 16秒	20070319 ～ 20070413	約89m <sup>2</sup>	公共下水道工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
老原遺跡 第14次調査	生産域	中世以降	落込み1箇所					
奈良街道 第1次調査	集落 生産域	室町時代後期	溝1条	瓦質土器(中世)				
要約	老原遺跡第13次調査では、中世に人為的に造成された地層を確認し、その上面で落込みを検出した。落込みとその基盤層となる人為的に造成された地層下面の深い部分の推定方向が、旧大和川の主流であった長瀬川とほぼ直交することから、長瀬川に楔むる土地利用・水利に伴う造成であった可能性がある。奈良街道第1次調査では、室町時代後期の溝を検出した。溝は南北方向に伸び、埋土の堆積状況から、時に水の流れがあったことが窺えることから、何らかの地割りによる川水等の用途が想定される。							

財団法人八尾市文化財調査研究会報告 110  
老原遺跡第13次調査・奈良街道第1次調査

発行 平成19年7月31日

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58番地の2  
TEL・FAX 072(994)4700

印刷 株式会社 近畿印刷センター

〒581-0033 大阪府八尾市志紀町南2丁目131番地  
TEL 072(920)3488  
FAX 072(920)3455

表紙 レザック66 <260kg>

本文 ニューエイジ <70kg>

二〇〇七年